



各 位

2021年4月9日

会社名 参天製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 谷内 樹生
(コード番号 4536 東証第1部)
問合せ先 IR室 室長 板垣 香里
(TEL 06-7664-8621)

減損損失の計上ならびに通期業績予想の修正に関するお知らせ

参天製薬株式会社(本社:大阪市、以下「当社」)は、2021年3月期第4四半期連結会計期間(2021年1月1日~2021年3月31日)において、STN2000100(DE-128)(以下「DE-128」)に関連する無形資産の減損損失を計上する見込みとなりました。あわせて、2020年5月8日に公表しました2021年3月期連結業績予想を修正いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 減損損失計上について

(1) 減損損失発生の理由

当社は、米国において2020年6月に市販前承認(PMA)申請を行ったDE-128について、2021年2月末に米国食品医薬品局(FDA)から審査に関するフィードバックを受け、以降、協議を実施しております。今後、協議に時間がかかる可能性も考えられることから、2021年度上期を想定しておりました米国における承認時期の遅延を前提に資産価値の見直しを行った結果、減損損失を計上する見通しとなりました。

(2) 減損損失の内容

現状、DE-128を開発するInnFocus,Inc.(米国)に係る無形資産(のれん及び開発製造販売権)として534億円を計上しております。今回の資産価値の見直しにより、のれんの全額の157億円と、開発製造販売権248億円の合計405億円(382百万米ドル)について減損損失を計上する見込みの一方で、149億円(141百万米ドル)の条件付対価公正価値変動額の戻入益を計上する見込みです。

2. 連結業績予想の修正

(1) 2021年3月期(2020年4月1日～2021年3月31日)連結通期業績予想の修正

コアベース

	売上収益	コア営業利益	コア当期利益	基本的1株 当たり コア当期利益
前回発表予想(A) (2020年5月8日公表)	百万円 235,000	百万円 52,000	百万円 38,700	円 銭 97.67
今回修正予想(B)	249,000	51,000	38,000	95.13
増減額(B-A)	14,000	-1,000	-700	
増減率(%)	+6.0	-1.9	-1.8	
(参考)前期連結実績 (2020年3月期)	241,555	50,023	35,894	90.00

IFRS(フル)ベース

	売上収益	営業利益	税引前 当期利益	当期利益	基本的1株 当たり 当期利益
前回発表予想(A) (2020年5月8日公表)	百万円 235,000	百万円 35,000	百万円 34,000	百万円 23,000	円 銭 58.35
今回修正予想(B)	249,000	14,500	14,000	7,000	18.27
増減額(B-A)	14,000	-20,500	-20,000	-16,000	
増減率(%)	+6.0	-58.6	-58.8	-69.6	
(参考)前期連結実績 (2020年3月期)	241,555	33,535	32,091	21,714	59.16

(2) 修正の理由

売上収益は主力の医療用医薬品事業を中心に、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の環境下でも堅調に推移しております。第4四半期においては、日本でアレジオンLXなどの主力製品が順調に推移したことに加え、中国においては集中購買の影響を受けながらも私立病院等を中心に順調に推移したこともあり、売上収益は前回発表の2,350億円から6.0%増加の2,490億円を見込んでいます。コアベースの営業利益については、510億円を見込みます。一方でIFRS(フル)ベースの営業利益、税引前当期利益、当期利益は、DE-128に関わる減損損失等を計上するため、前回発表予想を大きく下回る見込みです。

※上記の業績予想につきましては、当社が本資料の発表日現在において入手している情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

※IFRS(フル)ベースによる業績からコアベースでの業績への調整において控除する以下の収益および費用とそれらに係る法人所得税費用を調整し、コアベースを算出しています。

- ・製品に係る無形資産償却費
- ・その他の収益
- ・その他の費用
- ・金融収益
- ・金融費用
- ・持分法による投資損益
- ・販売費及び一般管理費のうち企業買収などに係る一過性費用

3. 本件に伴う事業への影響

DE-128 については、前述の通り米国における米国食品医薬品局(FDA)との協議を継続しております。なお、すでに承認され販売を開始している欧州での事業や、申請中のアジア諸国における薬事プロセスについて本件の影響は想定しておりません。引き続き、緑内障患者さんの治療選択肢のひとつとして貢献してまいります。

また、米国事業は、2020年9月に取得した Eyevance 社の販売チャネルを活用し、引き続きパイプラインの拡充を行いながら医療用医薬品事業を中心に着実な売上・利益成長を目指してまいります。

今後の施策／戦略については、本件の影響も含めて精緻化を行っている中期経営計画の中で説明をさせていただきます。

以上

STN2000100(DE-128)について

STN2000100(DE-128)は、米国において、最大耐用量の投与治療でも眼圧下降が不十分な原発開放隅角緑内障患者さんに対する治療法として開発中の、眼の外側からアプローチして房水流出を促す ab-externo 法の低侵襲手術用デバイスです。眼圧下降は、緑内障の進行と失明を抑制する最も効果的な手段です。生体適合性が高い SIBS(スチレン-イソブチレン-スチレンブロック共重合体)という特許素材でできた STN2000100(DE-128)は、柔軟性のある長さ 8.5 mm のチューブです。組織内にデバイスを固定する平面フィンを備えており、血液成分の漏れや埋植後の位置ずれを防ぎます。

Santen(参天製薬株式会社、本社:大阪市)について

Santen は、眼科に特化したスペシャリティ・カンパニーとして、医療用・一般用の医薬品や、医療機器の研究、開発、販売・マーケティング活動を行っています。世界約 60 を超える国・地域で製品を販売しており、国内の医療用眼科薬市場においては No.1 のシェアを有しています。130 年の歴史の中で培われた科学的知見や企業力を活かし、今後も、価値ある製品・サービスの提供を通じ、患者さんや患者さんを愛する人たちを中心として、社会への貢献を果たしてまいります。詳細については、当社ホームページ www.santen.co.jp をご参照ください。